

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成28年10月6日 (2016.10.6)

【公開番号】特開2015-60085(P2015-60085A)

【公開日】平成27年3月30日 (2015.3.30)

【年通号数】公開・登録公報2015-021

【出願番号】特願2013-193900(P2013-193900)

【国際特許分類】

G 0 9 G 5/00 (2006.01)

G 0 3 B 21/00 (2006.01)

G 0 3 B 21/14 (2006.01)

G 0 3 B 21/10 (2006.01)

G 0 9 G 5/36 (2006.01)

G 0 9 G 5/38 (2006.01)

H 0 4 N 5/74 (2006.01)

【 F I 】

G 0 9 G 5/00 5 1 0 B

G 0 3 B 21/00 E

G 0 3 B 21/14 Z

G 0 3 B 21/10 Z

G 0 9 G 5/00 5 5 0 C

G 0 9 G 5/36 5 2 0 F

G 0 9 G 5/00 5 1 0 V

G 0 9 G 5/38 A

G 0 9 G 5/00 5 5 0 B

G 0 9 G 5/00 5 5 0 D

H 0 4 N 5/74 Z

【手続補正書】

【提出日】平成28年8月17日 (2016.8.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 8 】

この場合、スレーブである表示システム 5 C に表示されている投写画像 P 3 は消去されるが、投写画像 P 3 にペン等による書き込みを含む場合、投写画像 P 3 の画像データは表示システム 5 C に復元可能に記憶されても良い。

尚、図 6 (d) では、表示システム 5 A がマスターになった場合を例示しているが、表示システム 5 C がマスターになった場合は、投写画像 P 1 に代わって投写画像 P 3 が拡大表示される対象となる。

また、本実施形態 1 では、接触している表示システム 5 が所定の距離を越えて離間した場合、主従関係はリセットされて拡大表示モードは解除され、分割表示は終了する。それぞれの表示システム 5 は接触前に表示していた表示態様に戻る。